



## 26 妙法山遠望図蒔絵巻筒箱

一点

赤塚自得

昭和三年（一九二八）

木製漆塗、蒔絵

一五・四×二一・九×七・〇

本作は昭和三年（一九二八）の秩父宮雍仁親王の御結婚の際に、ご学友であった蜂須賀正氏から献上された品で、秩父宮の称号の由来となった秩父三峰山の一つ、妙法ヶ岳を臨まれる殿下の姿が表されている。連なる峰は、非常に細かい金粉を用い、蒔き方に濃淡をつける蒔暈かしの技術によって表され、明確な色の違いによる境界線を作らないことで湿潤な空気が表現される。また、近景を薄肉高蒔絵でやや盛り上げて遠近感を立体的に表すだけでなく、近景の木々は葉叢によって盛り上げ方に差をつけ、より写実的に表現する点にも高い技術力を見ることができ、わずか三センチほどの大きさで表された殿下は、手袋や眼鏡、杖、リュックサックなど道具類までもが丁寧に表現された登山姿で、穏やかな眼差しを妙法ヶ岳に向けられている。小品ながら優雅で、一枚の絵画にも劣らない存在感のある作品といえる。

作者の赤塚自得（一八七二～一九三〇）は代々漆芸を生業とする家の七代目として生まれ、大正から昭和期の美術工芸界を牽引した人物である。日本画や洋画も修めたことが知られており、本作のように伝統的な蒔絵技法を駆使しながら、写実的風景表現という新たな蒔絵表現を模索した作品も遺している。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社アイワード  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan